

# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.118



10月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail: kankou01@syd.odn.ne.jp

URL: <http://www.kankou-fa.jp>

2018年10月1日

## 「国際観光施設協会発足から・・・」

副会長 花又 昇

戦後間もなく海外からの訪日者を増やすための国際観光振興の努力が重ねられてきました。そこで宿泊施設の整備が急務でしたが、当時はホテル旅館を新築する資金調達が難しく、既存施設の整備の改良が求められました。そこで当時の観光部長がアメリカでのHOTEL EXHIBITIONを参考に外国人客の受け入れ施設を整備する指針として計画した、第一回の「観光施設展」が昭和25年に開催され、新しく開発された設備や備品をはじめ新建築材料等が展示されました。以降27年28年と開催され、この「観光施設展」への出店業者の中で協会の設立に熱意のある23社で昭和28年11月12日に丸ノ内ホテルで設立総会を開いて「国際観光設備協会」が発足されました。

その後運輸省観光部の応援を受けて第4回以降の観光施設展を開催し全国各地のホテル旅館の運営者の方々に来展されました。また機関誌「観光設備ニュース」を発行し、昭和29年に月刊誌とし昭和30年9月からは「観光設備」と改題しました。

当時は観光施設に関する書物や手引き書がなかった時代で、ホテル・旅館の経営者をはじめ設計者の方々にも購読されました。その後、設備や用品などの製造販売に関する企業様の入会で協会の会員は63社になり、昭和32年に運輸省に申請をして12月27日付けで社団法人となりました。

昭和34年にオリンピックが1964年に東京で開催と決まるとホテルの建築ブームとなり、協会は機関誌の充実と各地での「観光設備講習会」を行い、高い評価を受けメーカー会員の加入が相次ぎ昭和35年には108社に及んでいます。昭和45年の大阪万博で第2次ホテル建築ブームとなり、協会の活動範囲を設備、什器備品から観光施設や観光地まで広げ建築設計事務所や施工業者も加わり、協会の名称を昭和45年6月の通常総会で「国際観光施設協会」と改称されました。

平成に入りホテル・旅館の施設改善の実施調査、宿泊施設の魅力向上や観光施設整備の充足度などの調査研究を受託し、平成12年には協会の充実を計るべく従来の設計・施工・メーカーの部会を組み替えて、会員全員が部会に入りお互いの交流を深める目的に交流部会を発足しました。平成24年には社団法人から公益社団法人として観光振興に技術で貢献する唯一の公益法人となり、平成27年度よりCSVの考え方を取り入れ、会員に良し・協会に良し・結果観光に良しのテーマを実施してきた結果、平成29年度の会員数は284社となり、観光業界に更に貢献できる協会へと進んでいくことでしょう。

「2003年発行の観光施設 50周年記念号」から

## 聞かねば損するCSV中間報告会（観光で新しいビジネスのたね）

会長 技術委員長 鈴木 裕

すでにご案内のように本年度より、ホテル都市分科会と旅館観光地分科会が発展的に合同してホテル&リゾート分科会となりました。従来の活動に加えて皆様のビジネスにも大いに参考になるインパクトある新しい活動を開始しています。10月2日のCSV中間報告会にて報告しますので経営者、開発、営業の方には是非ご参加いただきたく願います。

### 1. ユニバーサル客室の研究（既存客室をバリアフリー化できるシステム研究）

現在のバリアフリー関連法規によるホテル客室が、商品としてみた場合に必ずしも優れているわけではなく法的強制なくして普及しづらいという問題があります。そこで当分科会では基本的機能を備えており、良好な投資対効果が見込めるバリアフリー客室の研究を始めています。投資対効果を考えると現在多く普及しているユニットバスが小さな改良でバリアフリーになればよいという観点から、レンタル特殊電動椅子利用による解決を研究しています。すでに1422のユニットバスがバリアフリー化できるという実験結果が出ており、今後は法的整備、レンタルシステムの構築、補助金を含めた事業化の研究が必要となります。パラリンピックに向けて大量のバリアフリー客室が必要とされる今、このシステムは大きな可能性があると考え、全日本シティホテル連盟と連携して研究を進めつつ、都庁、国際観光振興機構、観光庁などに働きかけていく予定です。

## 2. Ai と観光施設（労働者不足を解消し生産性を上げる自動化技術研究）

好景気とインバウンドの圧倒的増加により、ホテル旅館の人材不足が大きな問題となっています。人口減少問題を考慮すれば一時的ではなく日本の構造的課題として考えねばなりません。産業の発展とともに機械化による生産性向上が図られてきましたが、ホスピタリティー産業では機械化は費用対効果を含め困難で低賃金人材に頼ってきました。しかしここに来てAi、IoT技術の飛躍的発達により高度な機械化が可能となってきました。当分科会ではまず、喫緊の課題である旅館の食事自動搬送システムの研究を始めています。Aiを活用して工場等の既存技術を旅館用に改造していく研究です。研究成果を会員皆様に広く知っていただきビジネスにつなげていただければ幸いです。

### 建築部会の活動とこれからの予定

交流部会長・建築部会長 崎山 茂

建築部会では7月に3回目の水上セミナーを開催しました。初回で羽田から浅草までの水上幹線、第2回で日本橋から神田川の内陸河川巡りを体験しましたが、3回目は江東のいわゆるゼロメートル地帯の運河を巡り、現代人が新しい埋立地のように思っている運河が実は江戸初期に形作られていたことを学び、「水都・東京」の歴史の重みと共に、大震災や空襲から蘇った力強さを感じました。

これからも水辺を観光資源として追及していくと同時に、下流である都心と上流地域の関係を再考する活動も始めています。10月には宮林茂幸東京農大教授をお招きして道の駅「川場田園プラザ」等の経験を語っていただくセミナーを開催します。

### 設備部会の活動とこれからの予定

設備部会長 藤野健治

平成30年度設備部会では、本年度の事業計画として2回の施設見学会と1回の設備部会全体交流会の開催を予定しており、設備部会幹事会にて実現に向けた打合せを行っています。第1回施設見学会では「新たな価値を創造し続けるオフィス」の実現に向けて「大手町パークビル」に移転した「三菱地所(株)本社」の見学会を9月5日(水)と9月7日(金)の二回に分けて行っています。

11月12日には設備部会交流会を予定しており、芝浦工業大学の秋元孝之教授に講演をお願いするとともに、交流イベントの計画を進めています。また、第2回施設見学会は平成31年2月の開催を目指して準備を始めています。

### 大手町パークビル見学会 報告

設備部会長 藤野健治

平成30年9月5日(水)・7日(金)、設備部会による第1回施設見学会として「新たな価値を創造し続けるオフィス」の実現に向けて「大手町パークビル」に移転した「三菱地所(株)本社」の見学会をインテリア部会、建築部会の協賛を得て開催致しました。

①制度改革やITインフラの整備も含めた「働き方改革」の推進、②オープンでフラットな企業風土創出と社員1人ひとりのモチベーションや生産性の向上③個々の能力発揮とさらなる競争力の強化、を目指しているそうです。就業中のオフィス内の見学という性格上、見学可能な人数に限りがあり、2回に分け

て各回19名×2回=38名の方に見学して頂きました。見学の後は、懇親会場に移動し会員間の懇親を深めることが出来ました。

### インテリア部会の活動とこれからの予定

インテリア部会長 寺本昌志

インテリア部会では、例年通り四つのグループに分かれ活動をおこなっております。セミナーグループでは11/9にカーデザイナー奥山清行氏のセミナーを行う予定で準備を進めており、施設見学グループでは6/8「ホテルエミオン東京ベイ」の見学を行い、現在「変なホテル赤坂」の見学会を仕込み中です。

そして企業見学グループにおいては9/18に阿部興業株式会社中央研究所の見学会を行っており、情報発信グループでは8/23にインダストリアルデザイナー福田哲夫氏の鉄道車両デザインに関する研究会を行い、来年2月には照明デザイナーの長町志穂氏に研究会講師をお願いする予定です。

また部会全体では昨年度部会内活性化の為に実施した交流会を本年度も9/26に実施致しました。このように部会活動の中で会員の皆様にとって有益な交流と親睦が図れるように、今後もいろいろな企画を立て実施して参りたいと思っております。

### インテリア部会第20回研究会

「風音光で磨く新幹線の車両デザイン」報告

新情報発信グループ 委員 岩井秀行

新情報発信グループでは、本年8月23日に産業技術大学院大学名誉教授の福田哲夫様を講師にお招きし、30年に渡る新幹線車両デザインの仕事を語っていただきました。東海道・山陽新幹線だけで超高速の300km/hで年2億4000万人が利用。その車両デザインは揺れ、騒音、安全・安心などの性能を引き出すための常識との忍耐の対話。そして運転席の幅を削り、台車上部を膨らませ、走行音と車内の環境騒音を大幅に下げながら現在の流れるような美しい外観を実現させました。

空調機も走行抵抗から床下格納に変える際に荷棚下から吹き出させることで天井をすっきりさせ、軽量化も図った。20世紀は快適さを21世紀は豊かさをと設計要件も時代と共に変わり続ける中、エンジニアリングとデザインが本質の議論を常に持って問題を可視化する必要性は、当協会員にとっても大変参考となる新情報となりました。

## 12月6日忘年交歓会の予告 知性派アスリート 為末大氏 登壇!

事業委員長 岡野正人

年末恒例の忘年交歓会が12月6日(木)に、赤坂インターシティー・コンファレンスセンターAICCを会場に開催されます。

今年のセミナーには、オリンピックアスリートの為末大氏をお招きして、『Beyond 2020～スポーツのこと、国際観光のこと～(仮題)』をテーマに講演して頂く予定です。知性派スポーツコメンテーター、タレント、指導者としても高名な為末大氏に、2020年オリンピック・パラリンピックを目前にした、日本スポーツ界のこと、強化戦略と期待されるアスリート、その後の世界にスポーツがもたらすもの、そして、豊富な海外遠征のご経験を通して見えてくる、将来のスポーツ・ツーリズムについて語って頂く予定です。興味深いお話しに、期待が高まります。ご期待ください。

セミナーに続く忘年交歓会では、会員相互の親睦を深め、皆様のネットワークを一層広げて頂きます。お楽しみとしては、例年に増して素敵な景品の当たる福引で盛り上がりまして頂く予定です。こちらも乞うご期待。忘年交歓会は12月6日木曜日です。

## 第47回2019国際ホテル・レストラン・ショー のお知らせ ホテルズ実行委員会 委員長 浅野 一行

第47回 2019国際ホテル・レストラン・ショーは、平成31年2月19日(火)～22日(金)、例年通り東京ビッグサイトにおいて開催されます。

今回は、会員企業の皆様の協会ブースへの参加をより有意義なものにしていただくために、「ホテルズショー・協会ブースへの参加に関するアンケート」を実施いたしました。皆様から寄せられたご意見、ご要望は、出展の形式やブースの展示方法などに反映させていただきます。

出展は、オリンピック・パラリンピックのある2020年まで継続的に掲げている総合テーマ「日本のこころ」のもと、前回と変わらぬ規模で展示とセミナーを行ないます。今年度からホテル都市分科会と旅館観光地分科会が発展的に統合され、ホテル&リゾート分科会となったことから、展示内容が大きく変わる予定です。これまでの「木づかい」活動やたびむすびに、「Aiと観光施設」、「新ユニバーサル客室研究」、「トレンド探偵」、「クロストーク」などを加え、時代が求める社会的テーマに取り組み、観光施設の先端動向を探ります。

前回から始まった「サロン」(会員間の交流の場)は、今回も開催予定です。技術やノウハウを生かすCSV活動が盛り上がりを見せる一方で、素朴な会員間の交流が図れるまたとない貴重な機会です。

ホテルズショーは、企業の技術・ノウハウをPRできる場です。是非、協会ブースへご参加ください。

## 第111回ゴルフ会 予告 ゴルフ会 会長代行 杉浦 司

恒例の国際観光施設協会の秋のゴルフコンペを下記のとおり開催致します。

日時 : 平成30年11月15日(木)  
コース : 高坂カントリークラブ  
プレイ費 : 約20,000円  
(キャディ付・昼食+1ドリンク付・パーティ+ドリンク飲み放題付)各自精算  
会費 : 4,000円

コンペ終了後は表彰式と懇親会、賞品も多数用意しております。記念となる111回ということで、多くの皆様の参加をお待ちしております。

## ♥編集後記♥

9月26日、50社84名の方々の参加による交流部会インテリア部会の第2回全体交流会が開催され、4部門に分かれた事業実績の紹介が行われています。どの企画も大変充実した内容で、目標である会員相互の交流が潤沢に行われていることが判断できました。

各部会の事業は同じ志を持つ会員同士の情報交換の場でも有り、各企業にとって重要な情報を得る機会でありますので、今後とも全員参加で大いに活用してまいりたいと思います。

Y. K